

第10回日本DOHaD学会学術集会・第45回日本女性 栄養・代謝学会学術集会合同開催のご挨拶

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003951

第 10 回日本 DOHaD 学会学術集会・第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会
合同開催のご挨拶

浜松医科大学 産婦人科
伊東宏晃

今般、第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会ならびに第 10 回日本 DOHaD 学会学術集会の合同開催におけます学術集会長を担当する機会を頂きました。新型コロナウイルス第 5 波の荒波の中、2021 年 9 月 3-4 日 Web 開催、9 月 10-23 日アーカイブ開催致しました。参加登録者は総計 810 人であり無事終了することが出来ました。

日本女性栄養・代謝学会は研究会の時代から半世紀近い歴史がある産婦人科を主体とした臨床系の学会であります。学会化に伴い、女性の栄養摂取という視点から広く看護師、助産師や栄養士などの皆様にも参加して頂く事を目指しています。四半世紀を越す昔に、妊婦の栄養摂取に介入することで母体の合併症や周産期事象の改善を目指すというコンセプトに世界的な先鞭をつけた学会であります。その原点のひとつは、第二次世界大戦の末期に独軍の経済封鎖による饑餓、いわゆる”Dutch Famine”において妊婦に妊娠中毒症（現在の妊娠高血圧症候群に相当）の合併率が低かったという疫学研究に遡ります。

一方、Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD) は比較的新しい概念であり、日本 DOHaD 学会は若く成長期にある学会です。疫学、栄養学、生理学、動物学、畜産学、分子生物学などの基礎研究者と産婦人科、小児科、内科、精神科などの臨床の研究者によるどちらかと言えば基礎系の学会であります。大変興味深いことに、DOHaD というコンセプトの成立にも”Dutch Famine”に関わる疫学研究が大きく貢献しております。”Dutch Famine”を経験した妊婦から生まれた人々は成人期や老年期に種々の生活習慣病を発症するハイリスク群となるという疫学研究であります。

妊婦の栄養摂取の影響を母体の合併症と児の長期予後という異なる視点からの探求に源流をもつ両学会の学術集会を合同開催するにあたり、学会のテーマを「女性の栄養とトータルライフヘルスケアの世代継承性」と致しました。特別講演として Auckland 大学 Liggins 研究所の所長 Frank Bloomfield 教授ならびに静岡県立大学副学長合田敏尚教授にご講演を頂きました。両学の中堅会員にオーガナイザーを依頼し 4 つのワークショップを企画していただき、5 つのスポンサーセミナーに加えて、4 コマの CLoCMiP アドバンス助産師講習会を開催いたしました。両学会より合計 53 演題の一般演題の応募を頂き、新型コロナウイルス禍の Web 開催であっても発表並びに質疑応答の機会をできる限り確保すべく、全てオンライン発表形式といたしました。さらに学会への参加登録者の皆様から広くディスカッションを公募して活発な Web 上での質疑応答の機会を設けるべく工夫致しました。今回の両学会の合同開催を契機として、妊婦の栄養摂取を基軸として多種多様な領域の基礎系研究者と臨床系研究者の皆様の交流が深まり、新たなコラボレーションや研究のシーズが芽生えることを期待致しております。

一刻も早くコロナ禍が収束しますことを心より祈念致しております。

謹白